



製品説明書

品名 : No.305 銀

作成日:2017.06.02
改訂日:2017.06.02

1. 特徴

シリコーン樹脂系塗料(溶剤型)
耐熱温度300℃
耐熱変色性、耐熱光沢保持性、耐候性に優れる
1コート可(2コートの場合、下塗にNo.900または903を使用)
屋内加熱設備外面等へ適応

2. 塗料性状

項目	内容
容姿	2液型
荷姿	800g、3kg、16kgセット
色調/光沢	銀/半艶
密度(23℃)	主剤:1.03±0.08g/mL 硬化剤:0.91g/mL
粘度(23℃)	18±1秒(F.C.No.4)
不揮発分	41.0±2.0wt%
引火点	主剤:31℃ 硬化剤:27℃
発火点	主剤:288℃(ミネラルスピリット) 硬化剤:367℃(n-ブタノール)
貯蔵期間	6ヶ月

注) 上記の数値は標準を示すものであり、若干の変動があります。

3. 関連法規則

項目	内容
消防法上の危険物表示	主剤:第4類第2石油類(非水溶性) 硬化剤:第4類第2石油類(非水溶性)
労安法上の有機溶剤区	主剤:第2種有機溶剤等 硬化剤:第2種有機溶剤等
労安法上の表示有害物	主剤 : キシレン エチルベンゼン トルエン 硬化剤 : n-ブタノール、メタノール
劇物表示	—
PRTR対象物質	主剤 : キシレン エチルベンゼン 1,2,4-トリメチルベンゼン トルエン 硬化剤 : —
消防法上の指定数量	主剤:1000L 硬化剤:1000L

4. 組成

	成分	配合(wt%)
主剤	シリコーン系樹脂	22.0
	顔料	19.0
	溶剤	59.0
硬化剤	シラン系硬化剤	40.0
	溶剤	60.0

5. 塗装基準

項目		内容	
適合素地		アルミ・鉄・ステンレス	
素地調整		2種ケレン以上 手工具、電動工具、又はブラストによる	
調合法		主剤:硬化剤 = 100:1.5 (wt%) 使用前に十分に攪拌し、均一に分散させる	
可使時間		24Hr	
使用シンナー		No.50、No.100シンナー	
塗装条件	塗装方法	刷毛塗り	エアレス塗装
	希釈率	0～10wt%	0～10wt%
	塗装回数	1回	1回
	標準使用量	75g/㎡/回	100g/㎡/回
	標準膜厚(Dry)	10 μ m	
硬化条件		目安として、180℃で20分加熱	

注) ・標準使用量は、外気温や個々の条件により変動する可能性があります。
・標準膜厚は想定膜厚です。
・本塗料の仕様詳細は施工仕様書をご参照下さい。

6. 注意事項

- 開缶後、堅い塊がなく一様になるまで十分攪拌した後使用して下さい。
- 被塗装面の油、湿気、塵埃などを除去してから塗装して下さい。
- 下記のような場合の塗装は避けて下さい。
 - ①降雨、降雪が予想される時。
 - ②外気温が5℃以下の時。
 - ③露点との差が3℃以内の時。
 - ④相対湿度が85%以上の時。
 - ⑤風の強い時。
- 稼動により一時的に粘着性を帯び発煙しますが、やがて煙は止まり塗膜は硬化します。
- 使用後の塗料は、皮張り防止の為、密閉して貯蔵して下さい。
- その他、塗料の取り扱いについての一般的な注意事項の詳細については、製品安全データシート(SDS)をご参照下さい。



成分性能表

作成日:2012.02.02

改訂日:2013.07.23

1. 製品名	No. 305 銀
2. 規 格	オキツモ株式会社 社内規格

3. 組成	成 分	配 合 割 合
	【主剤】 シリコン系樹脂 顔料 溶剤	22.0 19.0 59.0
	合 計	100.0 (wt%)
	【硬化剤】 シラン系硬化剤 溶剤	40.0 60.0
	合 計	100.0 (wt%)

4. 試験成績				
試 験 項 目		試験成績	規 格	判 定 基 準
容器の中 の状態	主 剤	合 格	JIS K5600-1-1 容器の中の状態 による	かき混ぜたとき、堅い塊がなくて 一樣になること
	硬化剤	合 格		
乾燥時間 (半硬化)		合 格	社内規格 (20℃)	2時間以内
塗膜の外観		合 格	社内規格	標準見本板と比較して著しい 差異のないこと
耐熱性 (素材:SUS430)		合 格	社内規格 (300℃×3Hr)	膨れ・剥がれのしない事



塗装仕様書

technical
information

仕 1-305-005
P1/2-A7

オキツモ耐熱塗料 305

耐熱性	300℃	乾燥	常温	構成	1コート
色調	銀	艶	半艶	容姿	2液型

特 長 耐熱変色性、耐熱光沢保持性、耐候性に優れています。

適用素材 アルミ、ステンレス

用 途 屋内加熱設備外面 など

塗装仕様

素地調整	2種ケレン以上 手工具、電動工具 又は ブラストによる	
塗装方法	ハケ、スプレー	
硬化剤 [可使時間]	1.5wt% [24時間]	
希釈剤	50、100シンナー	
希釈率	ハケ	0 ~ 10wt%
	スプレー	0 ~ 10wt%
標準膜厚 (Dry)	10μ m	
塗装回数	ハケ	1回
	スプレー	1回
標準使用量	ハケ	75g/m ² /回
	スプレー	100g/m ² /回
乾燥	常温 (半硬化)	

- ・外気温により標準使用量は、変動する可能性があります。
- ・塗装後の塗膜は指触乾燥程度で完全硬化には至っていません。
(目安として 180℃程度の熱が 20~30 分以上かからないと完全硬化には至りません)
- ・稼動により一時的に粘着性を帯び発煙しますが、やがて煙は止まり塗膜は硬化します。

荷 姿 800g、3Kg、16Kg (硬化剤付き)



塗装仕様書

technical
information

仕 1-305-005

P2/2-A7

塗装時における注意事項

- [塗装環境]
 - ・以下の条件の時は塗装しないでください。
 - ①降雨・降雪が予想されるとき ②外気温が5℃以下のとき、露点との差が3℃以内
 - ③相対湿度が85%以上 ④強風のとき
 - ・通気性の悪い環境下での使用は避けてください。
- [素地調整]
 - ・素材表面に旧塗膜、錆、汚れが付着している場合は、ブラスト、サンダー、グラインダー、ワイヤーブラシ、サンドペーパーなどで除去してください。
 - (1種ケレン) ブラスト法により、旧塗膜、錆、汚れを完全に落とし、灰白色に仕上げてください。
 - (2種ケレン) 旧塗膜、錆、汚れを素地が見えるまで除去してください。健全な塗膜が存在している場合は、表面あらしを行ってください。
 - ・素地調整により生じた塵埃、鉄粉などを被塗面からエアブロー、ハケ、ウエスなどで除去してください。
 - ・素地調整を行った被塗面は錆びやすいので速やかに塗装してください。
 - ・結露面には、塗装しないでください。
 - ・素地調整の良否は塗膜性能(密着性・耐食性・耐熱性)に大きく影響します。
- [塗料調整]
 - ・耐熱塗料は比較的顔料が沈殿しやすいため、使用前には十分な攪拌が必要です。攪拌が不十分な場合は剥離や光沢異常の原因となります。
 - ・希釈には必ず指定の希釈剤を使用してください。
 - ・主剤と硬化剤は所定の比率でその日の使用分だけ混合したのち、均一に攪拌してください。また、混合した塗料は可使時間内に使用してください。
 - ・他塗料の混入は避けてください。また、塗料中に水、油などの異物が混入すると塗膜異常の原因となります。
- [塗 装]
 - ・加熱されている状態の素材には塗装しないでください。
 - ・膜厚は指定された範囲内になるように管理してください。過剰膜厚で塗装された場合、加熱後、塗膜のフクレが生じる場合があります。
- [乾 燥]
 - ・指定された条件で乾燥してください。乾燥不良の場合、硬度不足などの性能不良が起こることがあります。
 - ・あらかじめ乾燥させた塗装物でも残留シンナーなどの有害成分が発生する恐れがありますので、塗装物の加熱時には換気を行ってください。
- [そ の 他]
 - ・塗膜に触れると乾燥後も銀粉は付着します。
 - ・塗膜が熱により軟化を起こす場合がありますので、塗膜に熱いものを乗せたりするときは注意してください。
- [廃 棄]
 - ・塗料の使用残や廃液の処理は専門業者に依頼し、廃棄する場合は国や地方自治体の法規に従ってください。
- [取扱い注意]
 - ・可燃性の有機溶剤を使用しているため、火気のある所では使用しないでください。
 - ・皮膚や粘膜、特に眼などには刺激性があるため、接触しないよう十分注意してください。接触した場合は多量の水で洗浄してください。
 - ・詳細な内容については、製品ごとの安全データシート(MSDS)をご参照ください。



オキツモ 耐熱塗料 No. 900 錆 下塗

作成日: 2007.05.23
改訂日: 2013.06.25

1. 使用用途

耐熱温度400℃まで 屋内加熱設備外面用下塗 など

2. 塗料性状

項目	内容
容姿	1液型
荷姿	1kg、4kg、16kg
色相	錆
光沢	艶消
密度(23℃)	1.30±0.08 g/ml
粘度(23℃)	BM粘度計 3号ローター60回転 1,000±400 mPa・s
加熱残分	57.0±2.0%
引火点	24℃
発火点	367℃(n-ブタノール)
貯蔵期間	6ヶ月
危険物表示	第4類第2石油類
有機溶剤区分	第2種有機溶剤等
有害物質表示	キシレン エチルベンゼン n-ブタノール

注) 上記の数値は標準を示すものであり、若干の変動があります。

3. 塗装基準

項目		内容	
適応素材		アルミ・鉄・ステンレス	
素地調整		2種ケレン以上 手工具、電動工具、又はブラストによる	
調合法		使用前に十分攪拌し、均一に分散させる	
可使時間(20℃)		—	
使用シンナー		No.50, No.50B, No.100, No.100B シンナー	
塗 装 方 法	塗装方法	刷毛塗り	エアレス塗装
	希釈率	10～20wt%	15～25wt%
	塗装回数	1回	1回
	標準使用量	140g/m ² /回	170g/m ² /回
	標準膜厚(Dry)	20μ m	
エアレス塗装条件例		ノズルNo: 16C11(旭サナック) 圧力: 6～8MPa(2次圧)	

乾燥時間	温度	5℃	20℃	30℃
	指触	1時間	30分	30分
	半硬化	2時間	1時間	1時間

注) ・標準使用量は、外気温や個々の条件により変動する可能性があります。
・標準膜厚は想定膜厚です。
・本塗料の仕様詳細は施工仕様書をご参照下さい。

4. 使用上の注意点

- 開缶後、堅い塊がなく一様になるまで十分攪拌した後使用する。
- 被塗装面の油、湿気、塵埃などを除去してから塗装すること。
- 下記のような場合の塗装は避けること。
 - ①降雨、降雪が予想される時。
 - ②外気温が5℃以下の時。
 - ③露点との差が3℃以内の時。
 - ④相対湿度が85%以上の時。
 - ⑤風の強い時。
- 常温乾燥では半硬化程度で、目安として180℃で20分以上加熱する事で硬化します。
- 稼動により一時的に粘着性を帯び発煙しますが、やがて煙は止まり塗膜は硬化します。
- 使用後の塗料は、皮張り防止の為、密封して貯蔵すること。
- その他、塗料の取り扱いについての一般的な注意事項の詳細については、製品安全データシート(MSDS)を御参照下さい。



オキツモ 耐熱塗料 No. 903 グレー 下塗

作成日: 2007.05.23
改訂日: 2013.06.25

1. 使用用途

耐熱温度400℃まで 屋内加熱設備外面用下塗 など

2. 塗料性状

項目	内容
容姿	1液型
荷姿	1kg、4kg、16kg
色相	グレー
光沢	艶消
密度(23℃)	1.28±0.08 g/ml
粘度(23℃)	BM粘度計 3号ローター60回転 1,000±400mPa・s
加熱残分	59.0±2.0%
引火点	24℃
発火点	367℃(n-ブタノール)
貯蔵期間	6ヶ月
危険物表示	第4類第2石油類
有機溶剤区分	第2種有機溶剤等
有害物質表示	キシレン エチルベンゼン n-ブタノール

注) 上記の数値は標準を示すものであり、若干の変動があります。

3. 塗装基準

項目		内容	
適応素材		アルミ・鉄・ステンレス	
素地調整		2種ケレン以上 手工具、電動工具、又はブラストによる	
調合法		使用前に十分攪拌し、均一に分散させる	
可使時間(20℃)		—	
使用シンナー		No. 50、No. 50B、 No. 100、No. 100Bシンナー	
塗 装 方 法	塗装方法	刷毛塗り	エアレス塗装
	希釈率	10～20wt%	15～25wt%
	塗装回数	1回	1回
	標準使用量	140g/m ² /回	170g/m ² /回
	標準膜厚(Dry)	20μ m	
エアレス塗装条件例		ノズルNo: 16C11(旭サナック) 圧力: 6～8MPa(2次圧)	

乾燥時間	温度	5℃	20℃	30℃
	指触	1時間	30分	30分
	半硬化	2時間	1時間	1時間

注) ・標準使用量は、外気温や個々の条件により変動する可能性があります。
・標準膜厚は想定膜厚です。
・本塗料の仕様詳細は施工仕様書をご参照下さい。

4. 使用上の注意点

- 開缶後、堅い塊がなく一様になるまで十分攪拌した後使用する。
- 被塗装面の油、湿気、塵埃などを除去してから塗装すること。
- 下記のような場合の塗装は避けること。
 - ①降雨、降雪が予想される時。
 - ②外気温が5℃以下の時。
 - ③露点との差が3℃以内の時。
 - ④相対湿度が85%以上の時。
 - ⑤風の強い時。
- 常温乾燥では半硬化程度で、目安として180℃で20分以上加熱する事で硬化します。
- 稼動により一時的に粘着性を帯び発煙しますが、やがて煙は止まり塗膜は硬化します。
- 使用後の塗料は、皮張り防止の為、密封して貯蔵すること。
- その他、塗料の取り扱いについての一般的な注意事項の詳細については、製品安全データシート(MSDS)を御参照下さい。



成分性能表

作成日:2007.05.23

改訂日:2012.11.26

1. 製品名	No. 900 錆 下塗
2. 規 格	オキツモ株式会社 製品規格

3. 組成	成 分	配 合 割 合
	シリコーン系樹脂	15.0
	顔料	40.0
	添加剤	2.0
	溶剤	43.0
	合 計	100.0(wt%)

4. 試験成績			
試 験 項 目	試験成績	規 格	判 定 基 準
容器の中の状態	合 格	JIS K5600-1-1 容器の中の状態 による	かき混ぜたとき、堅い塊がなくて 一樣になること
加熱残分	合 格	JIS K5601-1-2 加熱残分(180℃×40分)	57.0±2.0%
乾燥時間 (半硬化)	合 格	社内規格 (20℃)	1時間以内
塗膜の外観	合 格	社内規格	標準見本板と比較して著しい 差異のないこと
耐熱性	合 格	社内規格 (400℃×3Hr)	膨れ・剥がれの無い事



成分性能表

作成日: 2007.05.23
改訂日: 2012.11.26

1. 製品名	No. 903 グレー 下塗
2. 規 格	オキツモ株式会社 社内規格

3. 組成	成 分	配 合 割 合
	シリコン系樹脂	13. 0
	顔料	45. 0
	添加剤	1. 0
	溶剤	41. 0
	合 計	100. 0 (wt%)

4. 試験成績			
試 験 項 目	試験成績	規 格	判 定 基 準
容器の中の状態	合 格	JIS K5600-1-1 容器の中の状態 による	かき混ぜたとき、堅い塊がなくて 一樣になること
加熱残分	合 格	JIS K5601-1-2 加熱残分(180℃×40分)	59. 0±2. 0%
乾燥時間 (半硬化)	合 格	社内規格 (20℃)	1時間以内
塗膜の外観	合 格	社内規格	標準見本板と比較して著しい 差異のないこと
耐熱性	合 格	社内規格 (400℃×3Hr)	膨れ・剥がれの無い事

オキツモ耐熱塗料

900 + 305

耐熱性	300℃	乾 燥	常 温	構 成	2コート
色 調	(下塗) 錆 (上塗) 銀	艶	(下塗) 艶 消 (上塗) 半 艶	容 姿	(下塗) 1液型 (上塗) 2液型

特 長 耐熱変色性、耐熱光沢保持性、耐候性に優れています。

適用素材 アルミ、ステンレス、鉄（※鉄は2コート仕様に限ります）

用 途 プラント外面、焼却炉外面、煙突外面、加熱設備外面 など

塗装仕様

		下 塗	上 塗
		900	305
素 地 調 整		2種ケレン以上 手工具、電動工具 又は ブラストによる	
塗 装 方 法		ハケ、スプレー	
硬 化 剤 [可使時間]		—	1.5wt% [24時間]
希 釈 剤		50、50B、100、100B シンナー	50、100シンナー
希 釈 率	ハケ	10 ~ 20wt%	0 ~ 10wt%
	スプレー	15 ~ 25wt%	0 ~ 10wt%
標 準 膜 厚 (Dry)		20μ m	10μ m
塗 装 回 数	ハケ	1回	1回
	スプレー	1回	1回
標 準 使 用 量	ハケ	140g/m ² /回	75g/m ² /回
	スプレー	170g/m ² /回	100g/m ² /回
上塗までの塗装間隔		常温16時間以上12日以内	—
乾 燥		—	常温（半硬化）

- ・外気温により標準使用量、塗装間隔は変動する可能性があります。
- ・塗装後の塗膜は指触乾燥程度で完全硬化には至っていません。
（目安として180℃程度の熱が20～30分以上かからないと完全硬化には至りません）
- ・稼動により一時的に粘着性を帯び発煙しますが、やがて煙は止まり塗膜は硬化します。

荷 姿

900	: 1Kg、4Kg、16Kg
305	: 800g、3Kg、16Kg（硬化剤付き）

塗装時における注意事項

- [塗装環境]
 - ・以下の条件の時は塗装しないでください。
 - ①降雨・降雪が予想されるとき ②外気温が5℃以下のとき、露点との差が3℃以内
 - ③相対湿度が85%以上 ④強風のとき
 - ・通気性の悪い環境下での使用は避けてください。
- [素地調整]
 - ・素材表面に旧塗膜、錆、汚れが付着している場合は、ブラスト、サンダー、グラインダー、ワイヤーブラシ、サンドペーパーなどで除去してください。
 - (1種ケレン) ブラスト法により、旧塗膜、錆、汚れを完全に落とし、灰白色に仕上げてください。
 - (2種ケレン) 旧塗膜、錆、汚れを素地が見えるまで除去してください。健全な塗膜が存在している場合は、表面あらしを行ってください。
 - ・素地調整により生じた塵埃、鉄粉などを被塗面からエアークロー、ハケ、ウエスなどで除去してください。
 - ・素地調整を行った被塗面は錆びやすいので速やかに塗装してください。
 - ・結露面には、塗装しないでください。
 - ・素地調整の良否は塗膜性能(密着性・耐食性・耐熱性)に大きく影響します。
- [塗料調整]
 - ・耐熱塗料は比較的顔料が沈殿しやすいため、使用前には十分な攪拌が必要です。攪拌が不十分な場合は剥離や光沢異常の原因となります。
 - ・希釈には必ず指定の希釈剤を使用してください。
 - ・主剤と硬化剤は所定の比率でその日の使用分だけ混合したのち、均一に攪拌してください。また、混合した塗料は可使時間内に使用してください。
 - ・他塗料の混入は避けてください。また、塗料中に水、油などの異物が混入すると塗膜異常の原因となります。
- [塗 装]
 - ・塗り重ねは、必ず塗装間隔を守ってください。
 - ・加熱されている状態の素材には塗装しないでください。
 - ・膜厚は指定された範囲内になるように管理してください。過剰膜厚で塗装された場合、加熱後、塗膜のフクレが生じる場合があります。
- [乾 燥]
 - ・指定された条件で乾燥してください。乾燥不良の場合、硬度不足などの性能不良が起こることがあります。
 - ・あらかじめ乾燥させた塗装物でも残留シンナーなどの有害成分が発生する恐れがありますので、塗装物の加熱時には換気を行ってください。
- [そ の 他]
 - ・塗膜に触れると乾燥後も銀粉は付着します。
 - ・塗膜が熱により軟化を起こす場合がありますので、塗膜に熱いものを乗せたりするときは注意してください。
- [廃 棄]
 - ・塗料の使用残や廃液の処理は専門業者に依頼し、廃棄する場合は国や地方自治体の法規に従ってください。
- [取扱い注意]
 - ・可燃性の有機溶剤を使用しているため、火気のある所では使用しないでください。
 - ・皮膚や粘膜、特に眼などには刺激性があるため、接触しないよう十分注意してください。接触した場合は多量の水で洗浄してください。
 - ・詳細な内容については、製品ごとの安全データシート(MSDS)をご参照ください。



塗装仕様書

technical
information

仕 2-903+305-006
P1/2-A8

オキツモ耐熱塗料 903 + 305

耐熱性	300℃	乾燥	常温	構成	2コート
色調	(下塗) グレー (上塗) 銀	艶	(下塗) 艶消 (上塗) 半艶	容姿	(下塗) 1液型 (上塗) 2液型

特 長 耐熱変色性、耐熱光沢保持性、耐候性に優れています。

適用素材 アルミ、ステンレス、鉄（※鉄は2コート仕様に限ります）

用 途 プラント外面、焼却炉外面、煙突外面、加熱設備外面 など

塗装仕様

		下 塗	上 塗
		903	305
素地調整	2種ケレン以上 手工具、電動工具 又は ブラストによる		
塗装方法	ハケ、スプレー		
硬化剤 [可使時間]	—		1.5wt% [24時間]
希釈剤	50、50B、100、100B シンナー		50、100シンナー
希釈率	ハケ	10 ~ 20wt%	0 ~ 10wt%
	スプレー	15 ~ 25wt%	0 ~ 10wt%
標準膜厚 (Dry)	20μ m		10μ m
塗装回数	ハケ	1回	1回
	スプレー	1回	1回
標準使用量	ハケ	140g/m ² /回	75g/m ² /回
	スプレー	170g/m ² /回	100g/m ² /回
上塗までの塗装間隔	常温16時間以上12日以内		—
乾 燥	—		常温 (半硬化)

- ・外気温により標準使用量、塗装間隔は変動する可能性があります。
- ・塗装後の塗膜は指触乾燥程度で完全硬化には至っていません。
(目安として 180℃程度の熱が 20～30 分以上かからないと完全硬化には至りません)
- ・稼動により一時的に粘着性を帯び発煙しますが、やがて煙は止まり塗膜は硬化します。

荷 姿 903 : 1Kg、4Kg、16Kg
305 : 800g、3Kg、16Kg (硬化剤付き)

塗装時における注意事項

- [塗装環境]
 - ・以下の条件の時は塗装しないでください。
 - ①降雨・降雪が予想されるとき ②外気温が5℃以下のとき、露点との差が3℃以内
 - ③相対湿度が85%以上 ④強風のとき
 - ・通気性の悪い環境下での使用は避けてください。
- [素地調整]
 - ・素材表面に旧塗膜、錆、汚れが付着している場合は、ブラスト、サンダー、グラインダー、ワイヤーブラシ、サンドペーパーなどで除去してください。
 - (1種ケレン) ブラスト法により、旧塗膜、錆、汚れを完全に落とし、灰白色に仕上げてください。
 - (2種ケレン) 旧塗膜、錆、汚れを素地が見えるまで除去してください。健全な塗膜が存在している場合は、表面あらしを行ってください。
 - ・素地調整により生じた塵埃、鉄粉などを被塗面からエアブロー、ハケ、ウエスなどで除去してください。
 - ・素地調整を行った被塗面は錆びやすいので速やかに塗装してください。
 - ・結露面には、塗装しないでください。
 - ・素地調整の良否は塗膜性能(密着性・耐食性・耐熱性)に大きく影響します。
- [塗料調整]
 - ・耐熱塗料は比較的顔料が沈殿しやすいため、使用前には十分な攪拌が必要です。攪拌が不十分な場合は剥離や光沢異常の原因となります。
 - ・希釈には必ず指定の希釈剤を使用してください。
 - ・主剤と硬化剤は所定の比率でその日の使用分だけ混合したのち、均一に攪拌してください。また、混合した塗料は可使時間内に使用してください。
 - ・他塗料の混入は避けてください。また、塗料中に水、油などの異物が混入すると塗膜異常の原因となります。
- [塗 装]
 - ・塗り重ねは、必ず塗装間隔を守ってください。
 - ・加熱されている状態の素材には塗装しないでください。
 - ・膜厚は指定された範囲内になるように管理してください。過剰膜厚で塗装された場合、加熱後、塗膜のフクレが生じる場合があります。
- [乾 燥]
 - ・指定された条件で乾燥してください。乾燥不良の場合、硬度不足などの性能不良が起こることがあります。
 - ・あらかじめ乾燥させた塗装物でも残留シンナーなどの有害成分が発生する恐れがありますので、塗装物の加熱時には換気を行ってください。
- [そ の 他]
 - ・塗膜に触れると乾燥後も銀粉は付着します。
 - ・塗膜が熱により軟化を起こす場合がありますので、塗膜に熱いものを乗せたりするときは注意してください。
- [廃 棄]
 - ・塗料の使用残や廃液の処理は専門業者に依頼し、廃棄する場合は国や地方自治体の法規に従ってください。
- [取扱い注意]
 - ・可燃性の有機溶剤を使用しているため、火気のある所では使用しないでください。
 - ・皮膚や粘膜、特に眼などには刺激性があるため、接触しないよう十分注意してください。接触した場合は多量の水で洗浄してください。
 - ・詳細な内容については、製品ごとの安全データシート(MSDS)をご参照ください。